

春

遠い峠の
てっぺん

あは
あかん
かいな

鳥
かいな

企画展 | 生誕120年記念

詩人 **坂本遼展**

2024.12.7(土) ▶ 2025.3.30(日)

会場 / 姫路文学館 北館

開館時間 / 午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)

※休館日 / 月曜日(1月13日、2月24日は開館)、12月25日(水)～1月5日(日)、1月14日(火)、2月12日(水)、2月25日(火)、3月21日(金)

観覧料 / 一般450円、大学・高校生300円、中学・小学生150円(常設展料金)

- 20名以上の団体は2割引
- 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方(手帳またはミライIDの手帳画面を提示してください)及び介護者1人、姫路市内在住の65歳以上の方、どんぐりカード・ココロカード提示の小中学生は無料

■協力 / 加東市教育委員会 ■主催 / 姫路文学館



姫路文学館

HIMEJI CITY MUSEUM OF LITERATURE

<http://www.himejibungakukan.jp/>

自分の心に、 切実なものは 母でした

斎藤庸・昭和38年聞き書き（詩に架ける橋「昭和47年五月書房」）

貧しい農民たちの哀歎を土地の言葉で朴訥にうたい、現代詩史に方言詩の新たな地平を開いた兵庫県加東市生まれの詩人坂本遼。

丹波との国境に位置する播磨の山あい自作農の家に生まれた感傷的な少年は、つましい暮らしのなか母の深い愛情を受けて育ちました。留守がちな教師の父に代わり、峠田で一心に鎌を振る母（おかん）に象徴されるふるさとが、のちの詩のテーマとなります。

関西学院在学中、詩人草野心平にいち早く見出され、その詩誌「銅鑼」に参加。平仮名を書くのがやつとの母が、寄越す手紙への返信を綴るかのよう詩作に励み、大学を卒業した年に最初で最後となる詩集『たんぽぽ』（昭和二年 銅鑼社）を上梓して二躍注目を集めますが、母の死や生活の糧を模索する日々をなかにいつしか文学から遠ざかってゆきました。

長らく封印していた坂本の詩心を再びよみがえらせたのは、戦後、井上靖と竹中郁によって創刊された児童詩誌「きりん」での作文指導でした。生活の中から懸命に発せられる言葉にこそ「うつくしい心」を見出そうとするその姿勢は、かつて詩作で弱く貧しい者たちの無心の営みに人間の尊さを見たことと通ずるものがあります。

生誕百二十年という節目を迎え、このたび坂本家ご遺族および加東市教育委員会のご好意により膨大な未公開資料の調査を行うことができました。本展では、自身についてほとんど語ることもなかったこの寡黙な詩人の足跡をたどるとともに、そのまなざしがとらえ続けた「詩」の在処を探ります。どうぞご期待ください。

新資料

関西学院時代に母から届いた手紙
大正15年10月4日消印
加東市教育委員会保管



▲小説集『百姓の話』
昭和2年 坂本家蔵



▲詩集『たんぽぽ』
昭和2年 銅鑼社

▼児童詩誌「きりん」
坂本は3号（昭和23年5月）から参加。以後ライフワークとした。



▲草野心平からの手紙
昭和2年2月2日推定 坂本家蔵
詩集出版にあたり、題名や装幀などについて親身に提案している。

新資料

PROFILE

坂本 遼 さかもと りょう
明治37年～昭和45年（1904～1970）

詩人。兵庫県加東郡上東条村横谷（現・加東市）に生まれる。上東条尋常高等小学校（現・加東市立東条学園小中学校に併合された東条東小学校の前身）、兵庫県立小野中学校（現・小野高等学校）を経て、大正12年、関西学院（現・関西学院大学）文学部英文学科に入学。大正14年、「日本詩人」第二新詩人号への入選を機に草野心平の「銅鑼」に参加。同級生の竹中郁が主宰する「羅針」などにも作品を寄せた。関西学院を卒業した昭和2年9月に詩集『たんぽぽ』と小説集『百姓の話』を刊行。同年、姫路野砲兵第十聯隊に志願兵として入隊。昭和4年3月の除隊後、紆余曲折ののち、昭和6年に朝日新聞大阪本社に入社。従軍記者や応召を経て、戦後は学芸部長、論説委員などの要職を務めながら児童詩誌「きりん」の活動に力を注いだ。著書はほかに『こどもの綴方・詩』（昭和28年 創元社）、児童小説『きょうも生きて』（昭和34年 東都書房／厚生大臣賞・産経児童出版文化賞受賞）、『虹・まっ白いハト』（昭和40年 理論社）。



▲戦後の著書



展示解説会

日時／2024年12月15日（日）、2025年2月9日（日）
午後1時30分～3時（開場：午後1時）
※内容は同じ
定員／各回50人（当日先着順） 会場／講堂（北館3階）

朗読会 「たんぽぽの詩人 坂本遼の詩を味わう」

出演／一谷 円（劇団プロデュース・F）
日時／2025年2月24日（月・振休）午後2時～3時30分（開場：午後1時30分）
定員／100人（当日先着順・観覧券の半券が必要） 会場／講堂（北館3階）

記念イベント

担当学芸員による



姫路文学館
HIMEJI CITY MUSEUM OF LITERATURE
〒670-0021 姫路市山野井町84番地
TEL.079-293-8228
http://www.himejibungakukan.jp/

他館イベントのご案内

隈研吾の「コッゴツ」哲学
過去から未来へ生き残るデザイン
～高田賢三へのオマージュ～
The Collection Meets KUMA Kengo
2024年12月7日（土）～2025年2月2日（日）

姫路市立美術館 ☎079-222-2288

新春特別展
日本のガラス展

2025年1月25日（土）～4月13日（日）

姫路市立美術館 ☎079-267-0301



QRを読み込んで簡単アクセス
姫路文学館公式アカウントで情報を発信中!

アクセス
● JR・山陽電鉄姫路駅より神姫バス9-10-17-18番のりば（一部停車しない系統があります。ご確認ください）で乗車約6分、「市之橋文学館前」下車、北へ徒歩約4分。6番のりば城周辺観光ループバス乗車約10分。「清水橋（文学館前）」下車、西へ徒歩約3分
● 山陽自動車道姫路東IC.あるいは姫路西IC.下車約20分 ● 姫路バイパス中地ランプ下車約15分

ご来館の際の注意 ● 展示会場の混雑を緩和するため、入場規制を行う場合があります。● 駐車場の台数には限りがあります。公共交通機関のご利用にご協力ください。● 最新情報は当館ホームページ等でご確認ください。ご来館ください。